

日程：2012年5月4日セントレア出発 5月7日帰国 (フィリピン航空 PR437-PR483)

活動日：5月5日6日 2日間 (マカティ市バランガイ地区)

参加者：日本：歯科医師 19名、歯科衛生士3名、放射線技師1名 計23名

UE大学：歯科医師25名、在住歯科医師1名、自治会者数名

5月4日(金) 本隊20名はセントレア中部空港に午前7時に集合、荷物制限は2月より一人22kg×2以内の重量以下で出国しました。約4時間のフライト、フィリピン空港に無事到着。例年にない異常な天候が続いているようで外は熱帯特有のゲリラ・シャワーでした。幸い活動中は恵まれました。約30個余りのスーツケース、バックを手配のバスに積み込み、宿泊先はマニラホテル、日本との時差は1時間プラスです。到着後、役員はUE大学のLuciana 歯学部長に表敬訪問。夕刻には皆さんと翌日の行動予定、注意事項を伝え、志気を高めました。

5月5日(土) 交通事情も考慮してモーニングコールは午前6時、7時20分ホテル出発、現地まで約40分、診療場所は集会場ホールを準備されていました。外では患者待機場、受付のテーブルを、ホール内では患者の動線を考慮して、診断、レントゲン撮影、保存、口腔外科、機械器具消毒、投薬場所を決め仮設診療所を設定しました。9時30分にはスタンバイ。内科医一名はメデカルチェックで、食生活に問題があるのか血圧の高い傾向のある住民が多いようでした。午後からは曇り。しかし30度を超える暑さは汗がしたり落ちます。皆、献身的働きで、約200名の患者の診療にあたってくれ午後3時に終了。夕食はホテル内中華料理店で一緒に活動した先生たち約15名と共に会食懇談となり、UEとAGUDAAは学部長のforeverというキーワードで皆さんの心の絆を強めました。学長は長崎大で5年間理工学を学んだこともあり、

大変親日派で好意的でした。日本で研修した数名の先生とも今後の活動が円滑にいくよう会話が弾みました。夕方にはホテルから虹が見られ、日本との友好関係に吉兆の兆しを感じました。

5月6日(日) 8時ホテル出発、9時15分に診療開始ができ、UEからは20名応援がありました。当初は150名の予定でしたが、現地の再三の要望で200名を受け入れざるを得ませんでした。時間を延長しての終了となりました。総数約400名。昼近くになると気温もぐんぐん上がり汗が吹き出てきます。幸いにも重症なケースもなく2時頃までに終了。その後荷物を仕分け撤収。汗を流した後、最後の晚餐としてカマヤンレストラン(フィリピン料理+日本料理のバイキングスタイル)にて、打ち上げ反省会を行いました。

5月7日(月) ホテル10時半出発、空港遅れて14時発、午後7時着やや遅れたものの無事帰国しました。一部のトラブルはあったものの大過なく順調に予定通りの活動ができました。

手続きの煩雑さと難関の税関(関所)

テンポラリー免許取得で大阪まで出向き申請手続きが遅れ、寸前まで手間取りヤキモキさせられました。比入国の際、荷物検査でいつもチェックが入り、ボランティアだからといっても通用はせず税金を要求されますので、今回はサンデー先生に空港内へ入ってもらったこと、税関主任宛てにUE同窓会長の手紙を携えたこと等戦略を練って臨み、事なきを得通過しました。

国情、歯学部の事情の違い

近年フィリピンでは鉄道が開通、公共機関も整備されたため土、日曜日の交通事情は渋滞が緩和されてきています。清掃員の姿があちこち見られ街中のゴミが少なくなってきました。以前はドアのない車が多かったが見られなくなったなど以前と比べると街中が様変わりしつつあります。これまでの地域と比べこの地の口腔内の状態は、治療されている人が多かったのと壊滅的な口腔内は見られず、永久歯の健全歯も多くみられました。一日目の終了後、機械器具は現場に残し、無くならないよう



現地の人が見張りの為そこで眠ってくれました。応援してくれる現地の人たちの支援を嬉しく思いました。今までは UE の歯学生が応援してくれていましたが、今年度から 4-5 月の夏休み期間での課外活動は禁止となりました。またその理由は授業料を負担していないので学校側の責任がとれないということで、今回は OB の先生らの応援となりました。数年前より歯学部学生総数が 2000 人と受け入れているため多く、主に中近東、韓国、中国の学生が多いということでした。

謎の2名の診療

5月4日の診療を始めると、角の方でパーテーションを作って住民の歯を抜いている2名のメンバーが居ました。窓から観ていた先生から、我々とは違う組織の者が入り次々と居合い抜きのように抜歯をしています。鉗子で大根を抜くように手際よく次々に抜いて居るということです。その日の反省で、彼らの存在を正確に知る者はいませんでした。もぐりの偽医者では無いかという疑惑が浮かび、色々と奥底で推察、結局翌日に確認することとなり、サンデー先生から、地元の自治会が彼らに依頼をし、遠方より泊まりでわざわざボランティアで来てくれたことを知ることとなりました。分からない連携です。彼らは大変シャイで紹介をも出来なかったと語りました。金銭がらみかとも思った心が寂しくのしかかりました。

トラブル

準備でユニットとコンプレサーとの接続、電源コードが見当たらず、近くにあるサンデー先生の診療所から借りることになりました。スケーラーも不調、UE大学の技術者が来て修理、可動となりました。タービンは使えず、むし歯の割合はエンジン、エキスカで凌いでくれ、光重合充填、アイモノマー充填と使い分け、吸引も弱い所工夫して対応してくれました。汗だくの活動でした。抜歯での奮闘ぶりにもじむ汗がしたり落ちているのにも見るに日本での診療との違いを思い知りました。トラブルはつきものです。困難の壁を乗り越えて患者に対応してくれている団員が逞しく感じました。昼食は地元のジョルビーというファーストフード、ライスボールとチキン、食べ方が間違っていたためか大変不評でした。日本に帰国の際、荷物の受け渡しで一つ足りないことが判明、航空内タグの読み取りが故障していたこと、団員は既にスーツケースを持ち帰ったとことで、その時点では特定できない番号タグと判明しました。電話で番号を問い合わせたりしてのハプニング、最後の散会後のトラブル。結局、後日フィリピンから持ち出されていなかったこと、現地での器具を点検してもらい一件着落解決しました。私の不徳の致すところで皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。因みに、携帯品の保険はかけていなかったということなど反省点も出てきました。

雑感

2日間の診療を終えて、住民への無料診療は、国を越えて共同プロジェクトとして活動を継続しています。比国は、経済的にも医療面においても地域差の多い場所ではあります。今回は比較的恵まれた地域ではなかったか、マカティという繁華街の中のスラム街地域が対象となりました。まだまだ希望する患者は多いようです。診療体制は新メンバーの参加により、経験者からの直接指導が良い経験となったようです。奮闘したあとの拍手喝采が何度か聞こえてきました。また、地元の人たちの協力もあり、問診はタガログ語、我々には英語で確実に伝えられていました。内科医の健診も必要性を感じました。この地域は若年者に血圧が高い傾向があることも判明しました。現場で工夫しながらチームワークで効率よく進める、患者の負担にならないような配慮、日本の診療室とは全く違う雰囲気だからこそ必要なものが見えてくるなど多くの経験する事ができました。機械器具の道具のチェック方法は今後の課題となりました。今後も友好の国際親善、医療技術提供、協同無料診療の継続の必要性和、特に若い人達の参加の必要性を痛切に感じました。そして紙上で申し訳ありませんが、皆様からの御支援、御声援、御協力を頂きました事、心から感謝を申し上げたいと思います。

